

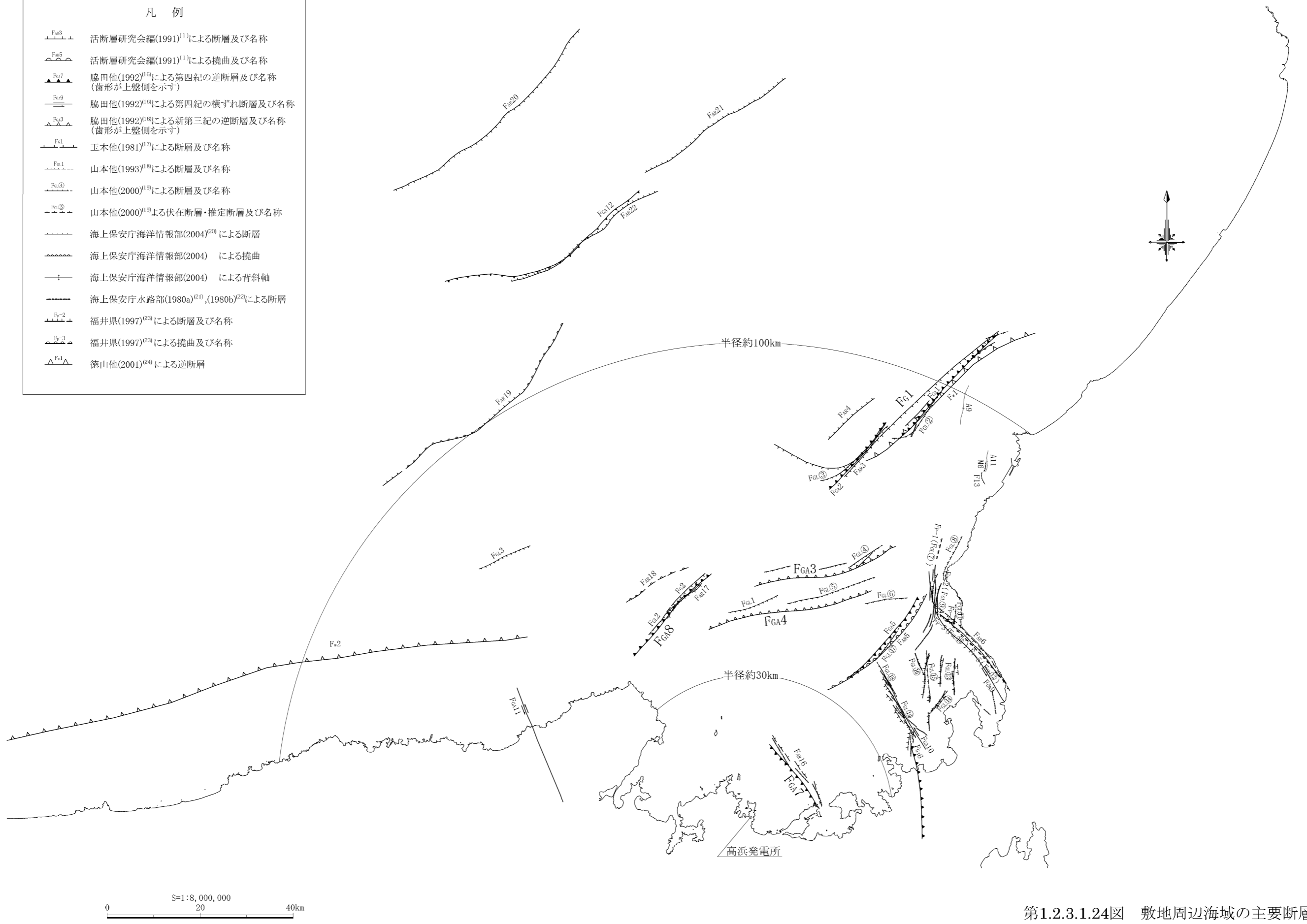
凡例

- 関西電力(株) G I ガン・マルチ (2013年調査)
- 関西電力(株) プーマー・ショートマルチ (2012年調査)
- 関西電力(株) ジオバルス・ショートマルチ (2006, 2007, 2008年調査)
- 関西電力(株) スパークー (1978, 1982, 1983年調査)
- ○ ○ ○ 海上保安庁水路部スパークー (1979年調査)
- ○ ○ ○ 地質調査所エアガン (1987年調査)
- ○ ○ ○ 日本原子力発電(株) ウォーターガン・シングル (1998年調査)
- ||||| 後期更新世以降の活動が認められる断層及び拗曲
- |—|—|—| 後期更新世以降の活動が認められない断層及び拗曲
- { } B層基底面に変形が及んでいる範囲

- 断層番号
- Fo : 高浜発電所敷地前面海域の断層
 - F : 美浜発電所敷地前面海域の断層として検討

第1.2.3.1.23図 敷地前面海域の断層分布図

凡 例	
	活断層研究会編(1991) ⁽¹⁾ による断層及び名称
	活断層研究会編(1991) ⁽¹⁾ による撓曲及び名称
	脇田他(1992) ⁽¹⁶⁾ による第四紀の逆断層及び名称 (歯形が上盤側を示す)
	脇田他(1992) ⁽¹⁶⁾ による第四紀の横ずれ断層及び名称
	脇田他(1992) ⁽¹⁶⁾ による新第三紀の逆断層及び名称 (歯形が上盤側を示す)
	玉木他(1981) ⁽¹⁷⁾ による断層及び名称
	山本他(1993) ⁽¹⁸⁾ による断層及び名称
	山本他(2000) ⁽¹⁹⁾ による断層及び名称
	山本他(2000) ⁽¹⁹⁾ による伏在断層・推定断層及び名称
	海上保安庁海洋情報部(2004) ⁽²⁰⁾ による断層
	海上保安庁海洋情報部(2004) による撓曲
	海上保安庁海洋情報部(2004) による背斜軸
	海上保安庁水路部(1980a) ⁽²¹⁾ , (1980b) ⁽²²⁾ による断層
	福井県(1997) ⁽²³⁾ による断層及び名称
	福井県(1997) ⁽²³⁾ による撓曲及び名称
	徳山他(2001) ⁽²⁴⁾ による逆断層



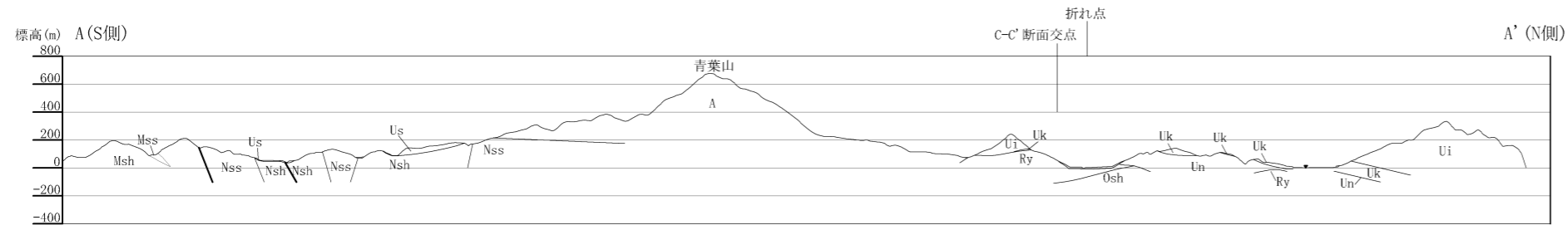
第1.2.3.1.24図 敷地周辺海域の主要断層分布図

地質凡例

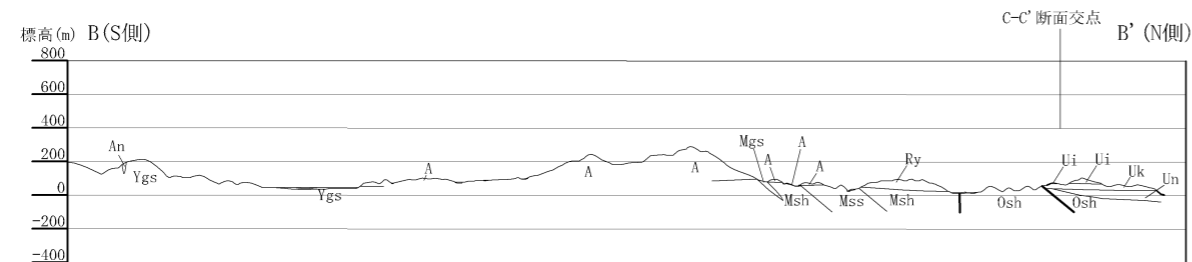
地質時代	記号	地層名等	主要構成地層		
新生代	第四紀	完新世	r	人工改変地	
			a	沖積層	礫, 砂, シルト, 粘土
		f	新期扇状地堆積物	礫, 砂, シルト	
		更新世	tl	低位段丘堆積物	礫, 砂, シルト
	新第三紀	A	青葉山安山岩類	安山岩, 凝灰角礫岩	
			大山安山岩	安山岩, 凝灰角礫岩	
		Qd	石英閃緑岩	石英閃緑岩	
		Ui	今戸鼻層	安山岩, 凝灰角礫岩	
			Uk	神野浦頁岩部層	泥岩
		Us Un		下層	礫岩, 砂岩
	塩浜峠礫岩・砂岩部層		安山岩, 凝灰角礫岩		
		名島火山岩部層			
中生代	白亜紀	Ry	音海流紋岩	流紋岩, 流紋岩質凝灰岩	
	三畳紀	Nss	難波江層群	砂岩	
		Nsh		頁岩	
		Na1		砂岩頁岩互層	
古生代	ペルム紀	U T sh	大飯層 (UT2コンプレックス)	頁岩	
		Mss	舞鶴層群	砂岩	
		Msh		頁岩	
		Mgs		緑色岩類	
	Osh	大浦層	頁岩		
	ペルム紀	}	Ysh	夜久野オフィオライト	頁岩
			Yfs		珪長岩
			Ygd		石英閃緑岩
			Ygs		緑色岩類
			Ymg		変斑れい岩
Yu			超苦鉄質岩		
新第三紀～白亜紀後期	An	岩脈	安山岩		

断面位置は第1.2.3.2.1図に示す。

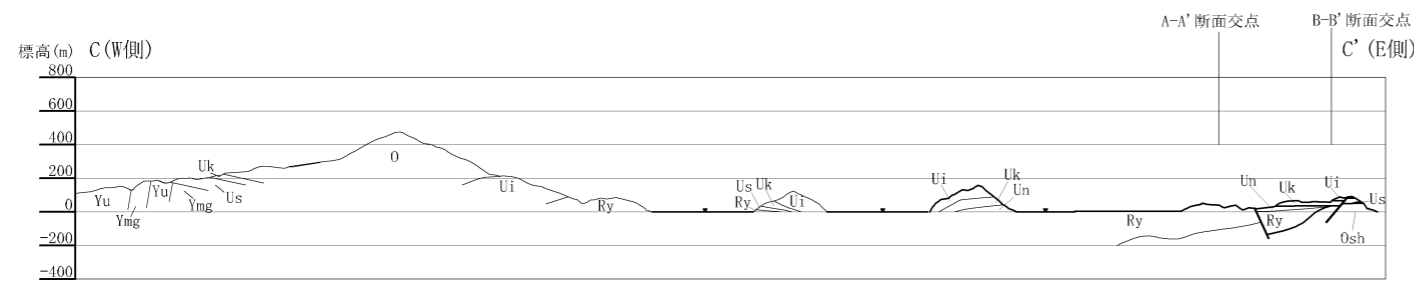
—— 地質境界
—— 断層



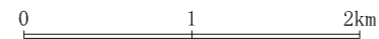
高浜 A-A' 断面



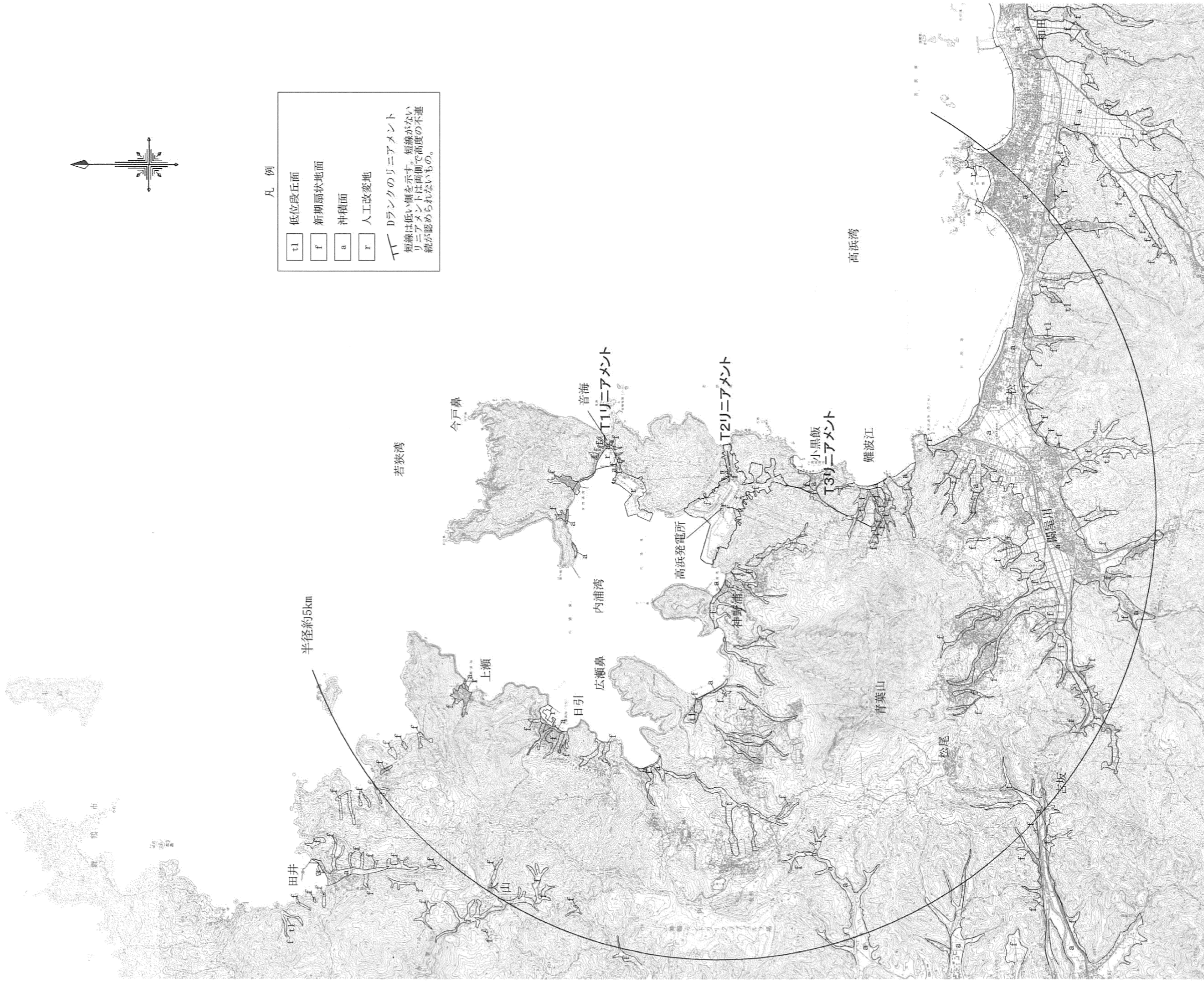
高浜 B-B' 断面



高浜 C-C' 断面



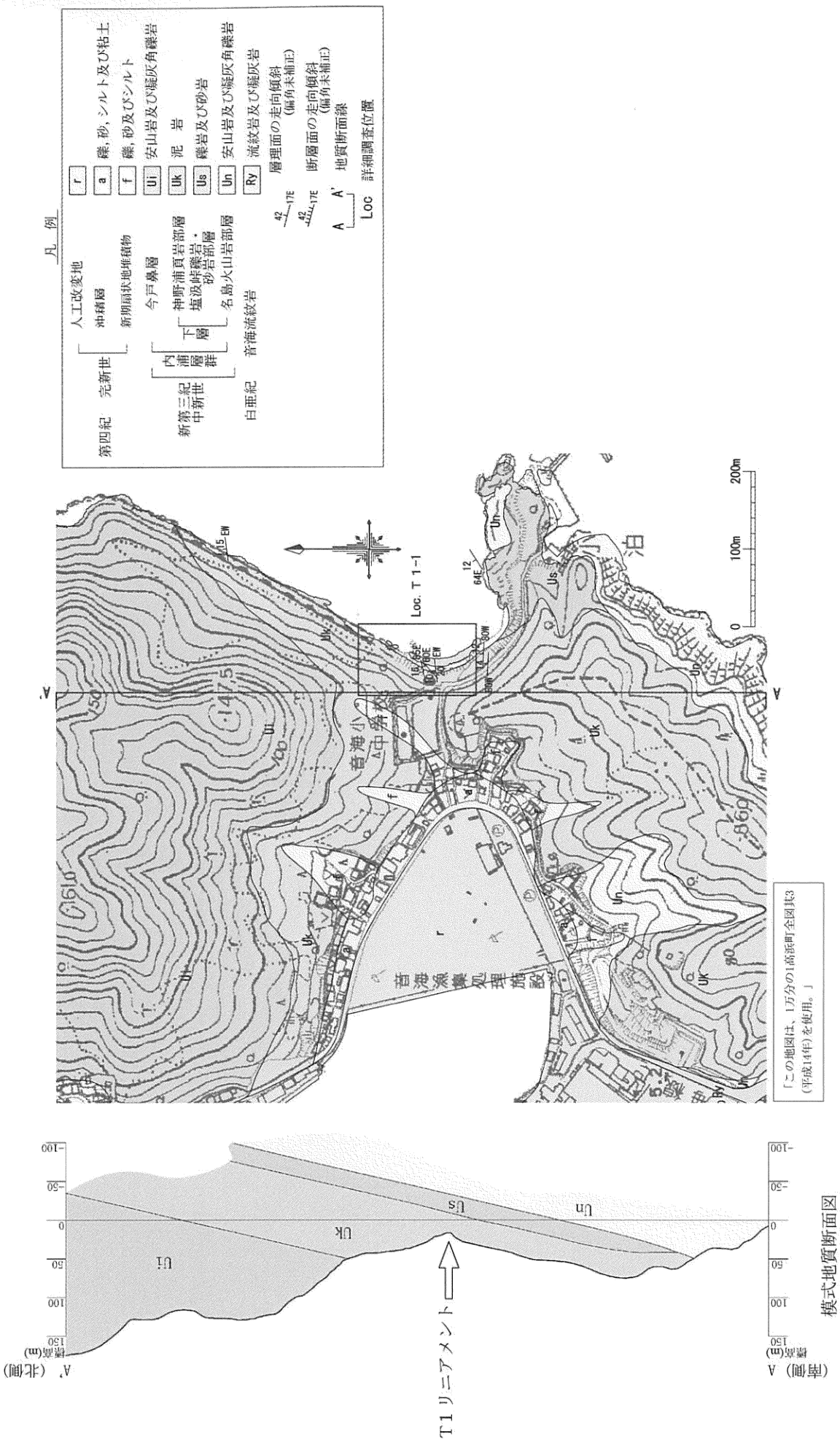
第1.2.3.2.2図 敷地近傍の地質断面図



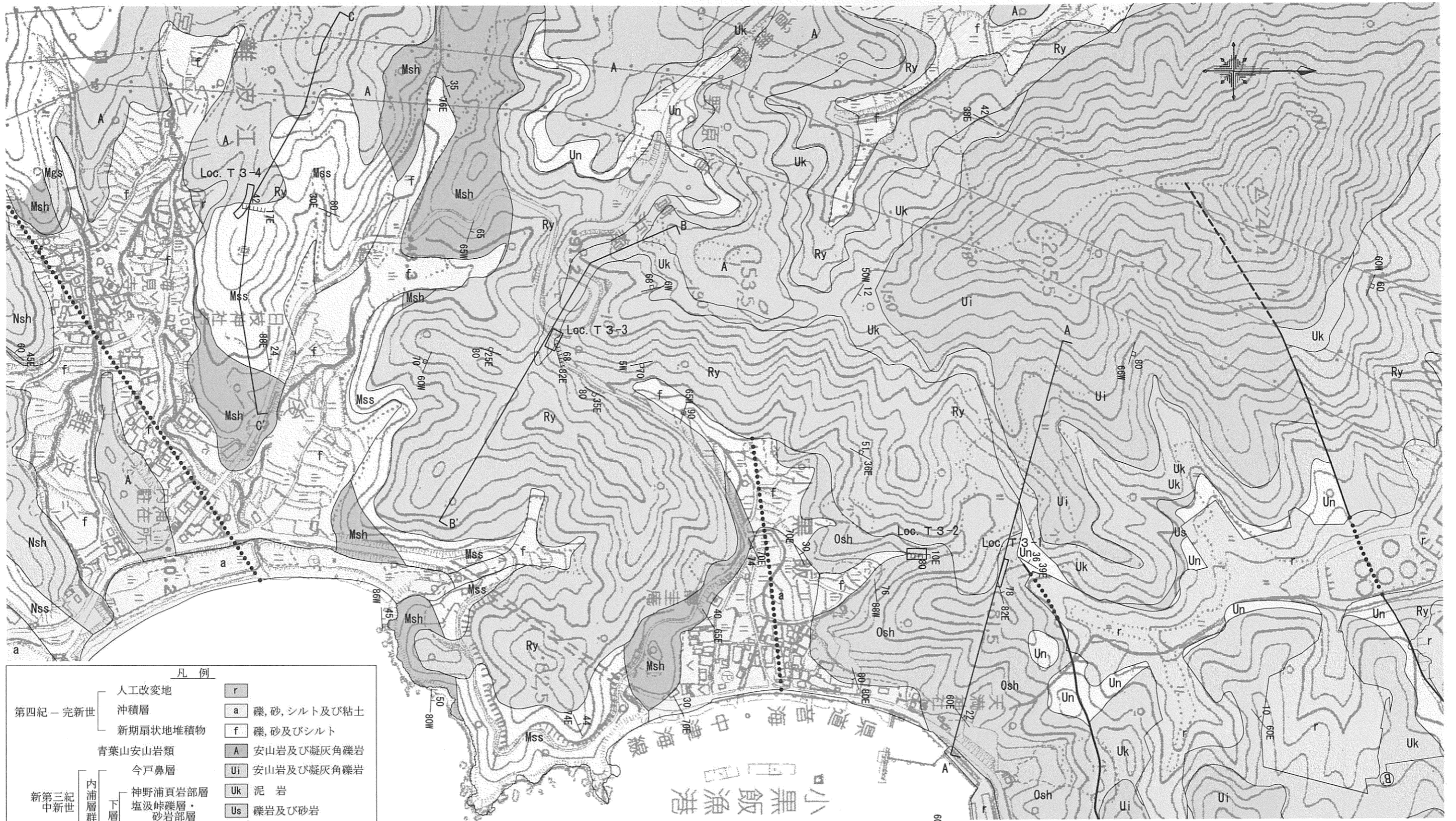
- 凡 例
- t1 低位段丘面
 - f 新期扇状地面
 - a 沖積面
 - r 人工改変地
 - Dラングのリニアメント
短線は低い側を示す。短線が短いリニアメントは両側で高度の不連続が認められないもの。

「この地区の一部につき、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平26情復、第211号)」

第1.2.3.2.3図 敷地近傍の地形調査結果



第1.2.3.2.4図 T1 リニアメント周辺の地質図

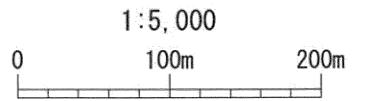


凡例

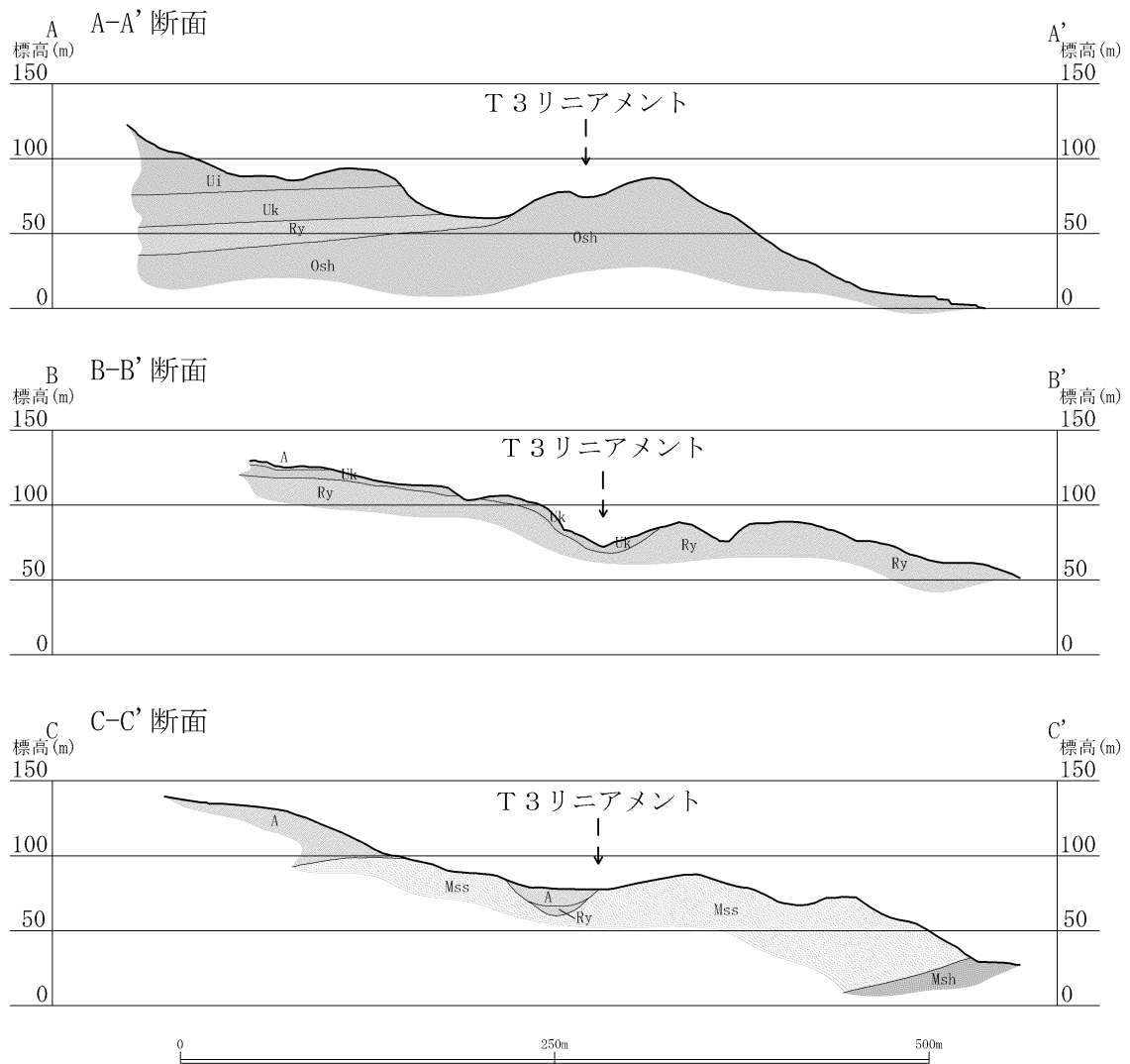
第四紀 - 完新世	人工改変地	r
	沖積層	a
	新期扇状地堆積物	f
青葉山安山岩類	A	安山岩及び凝灰角礫岩
新第三紀	今戸鼻層	Ui
中新世	内浦層群	Un
	下層	Uk
	神野浦頁岩部層	Us
	塩浜礫層・砂岩部層	Un
	名島火山岩部層	Un
白亜紀	音海流紋岩	Ry
三疊紀	舞鶴江層群	Nsh
		Nss
ペルム紀	舞鶴層群	Msh
		Mss
	大浦層	Mgs
		Osh

—	断層
- - -	推定断層
●●●	伏在断層
$\frac{42}{17E}$	層理面の走向傾斜(偏角未補正)
$\frac{42}{17E}$	割れ目の走向傾斜(偏角未補正)
$\frac{42}{17E}$	断層面の走向傾斜(偏角未補正)
A	A' 地質断面図作成位置
Loc	Loc 詳細調査位置 (スケッチ・ルートマップ)

「この地図は、1万分の1高浜町全図其3 (平成14年)を使用。」



第1.2.3.2.5図 T3リニアメント周辺の地質図



凡 例		
A	安山岩及び凝灰角礫岩	} 青葉山安山岩類
Ui	安山岩及び凝灰角礫岩	
Uk	泥 岩	} 内浦層群
Ry	流紋岩及び凝灰岩	
Msh	頁 岩	} 舞鶴層群
Mss	砂 岩	
Osh	頁 岩	} 大浦層

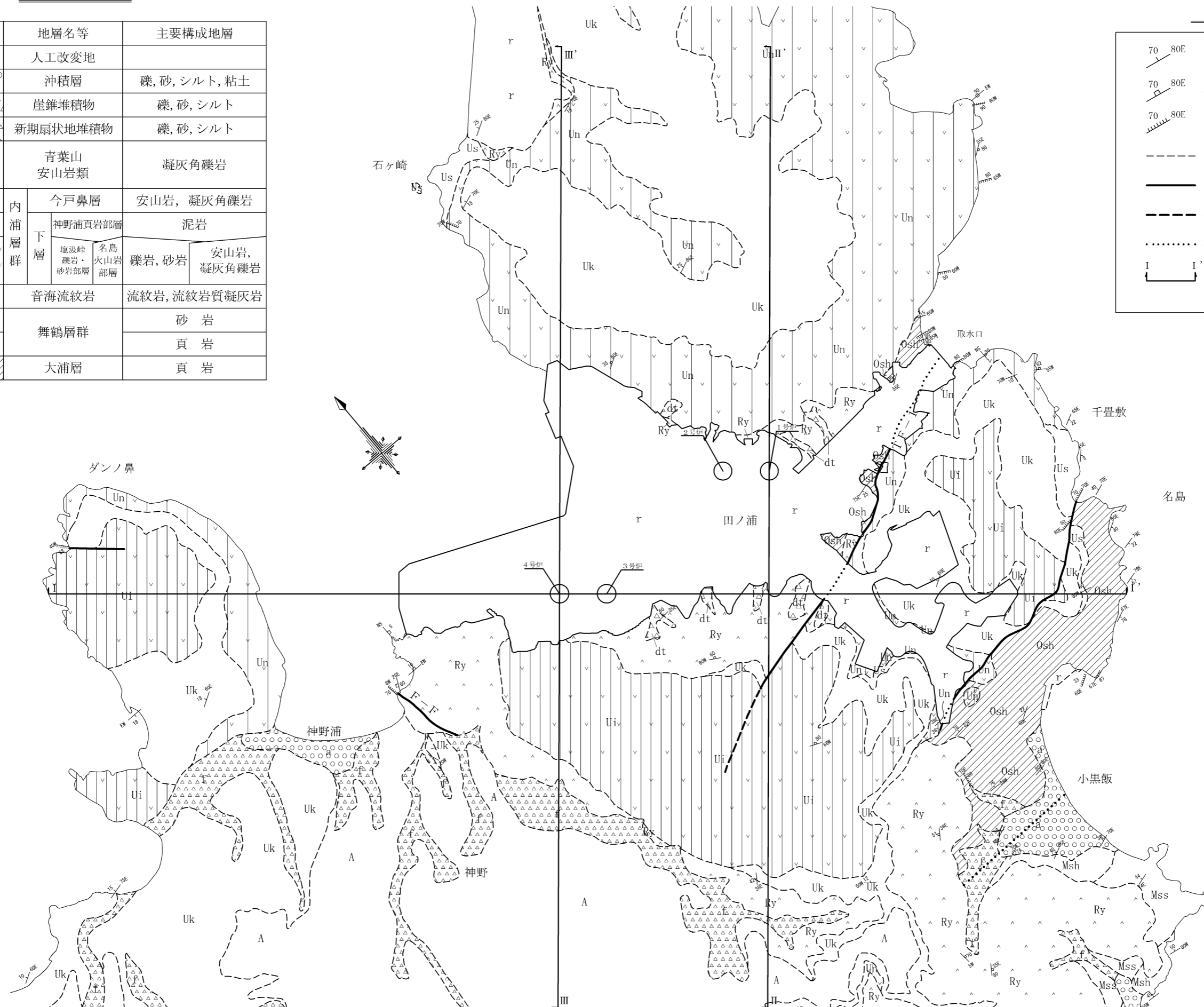
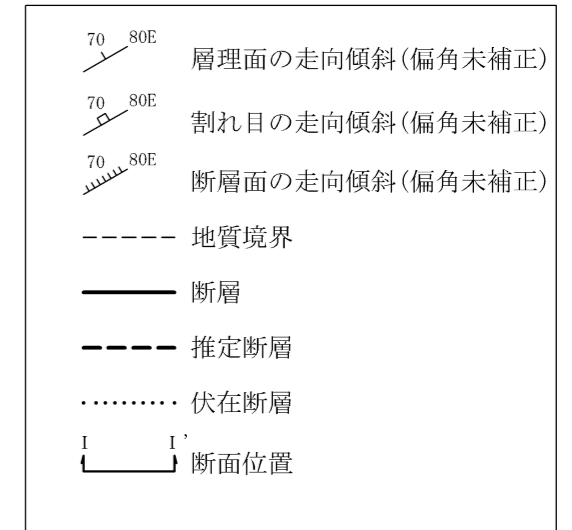
断面位置は第1.2.3.2.5図に示す。

第1.2.3.2.6図 T3 リニアメント周辺の地質断面図

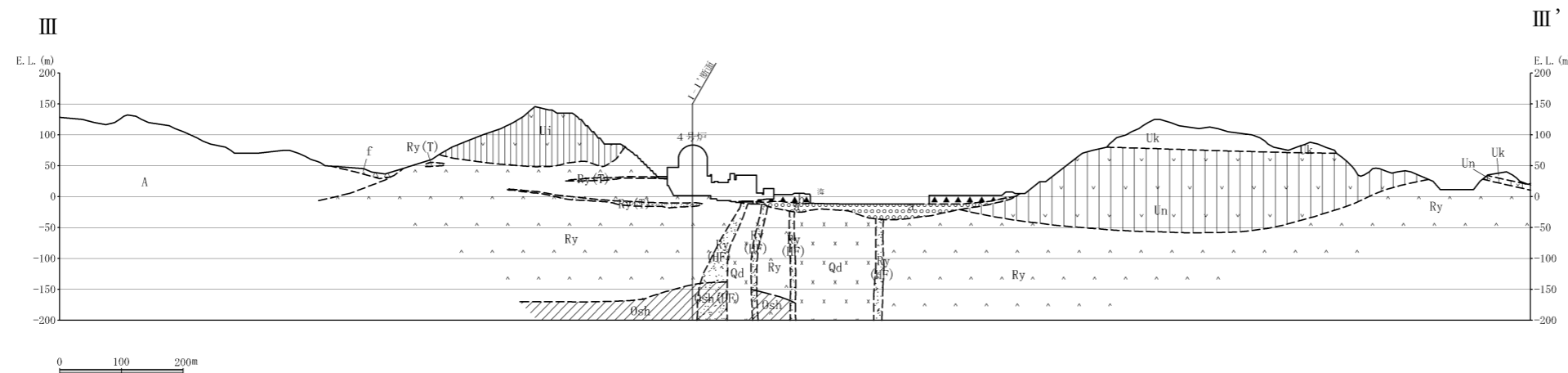
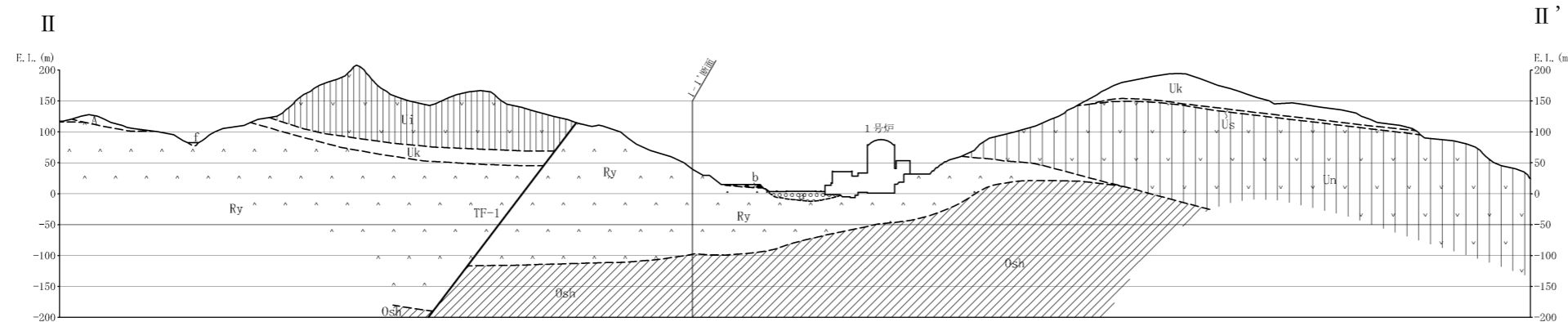
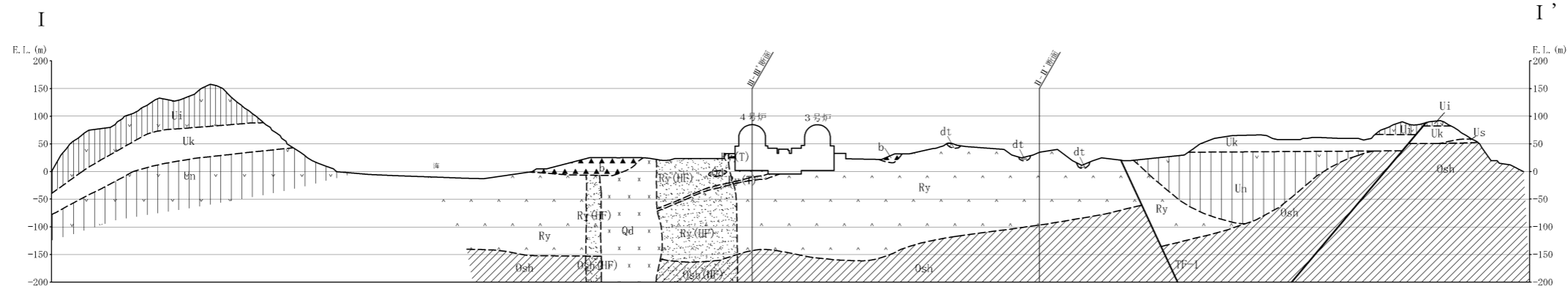
地質凡例

地質時代		記号	地層名等	主要構成地層	
新 代	第四紀 完 新 世	r	人工改変地		
		○ a ○	沖積層	礫, 砂, シルト, 粘土	
		△ dt △	崖錐堆積物	礫, 砂, シルト	
		△△ f △△	新期扇状地堆積物	礫, 砂, シルト	
生 代	新第三紀	A	青葉山 安山岩類	凝灰角礫岩	
		U _i	内 浦 層	今戸鼻層	安山岩, 凝灰角礫岩
		U _k	下 層	神野浦頁岩部層	泥岩
		U _s U _n		塩波峠 礫岩・ 砂岩部層	名島 火山岩 部層
中生代	白亜紀	Ry	音海流紋岩	流紋岩, 流紋岩質凝灰岩	
古 生 代	ペルム紀	Mss	舞鶴層群	砂 岩	
		Msh		頁 岩	
		Osh	大浦層	頁 岩	

記号凡例



第1.2.3.3.1図 敷地の地質図

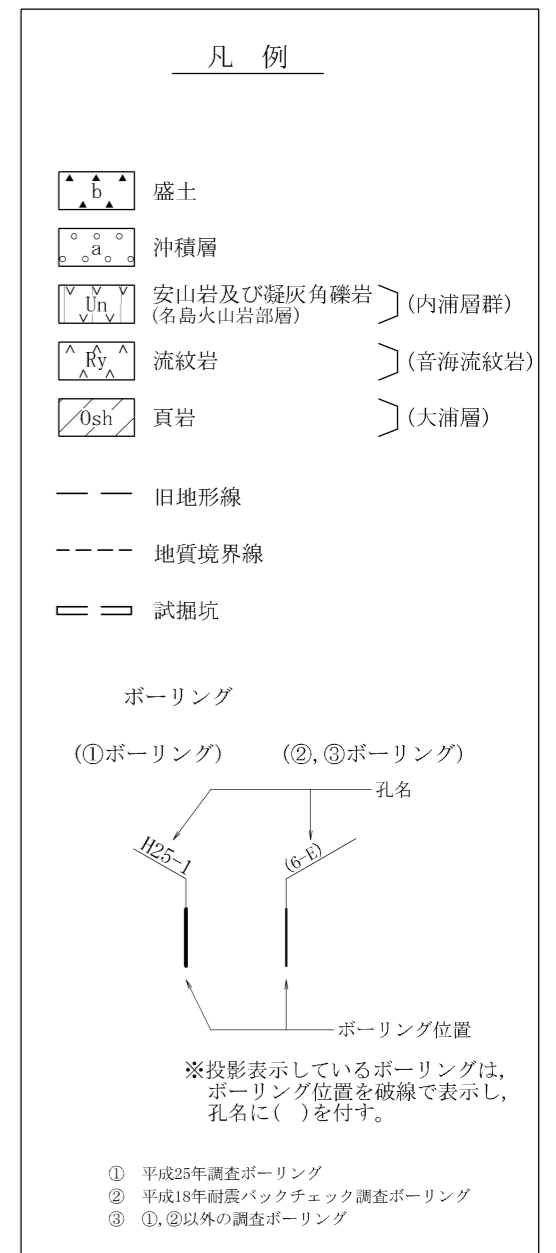
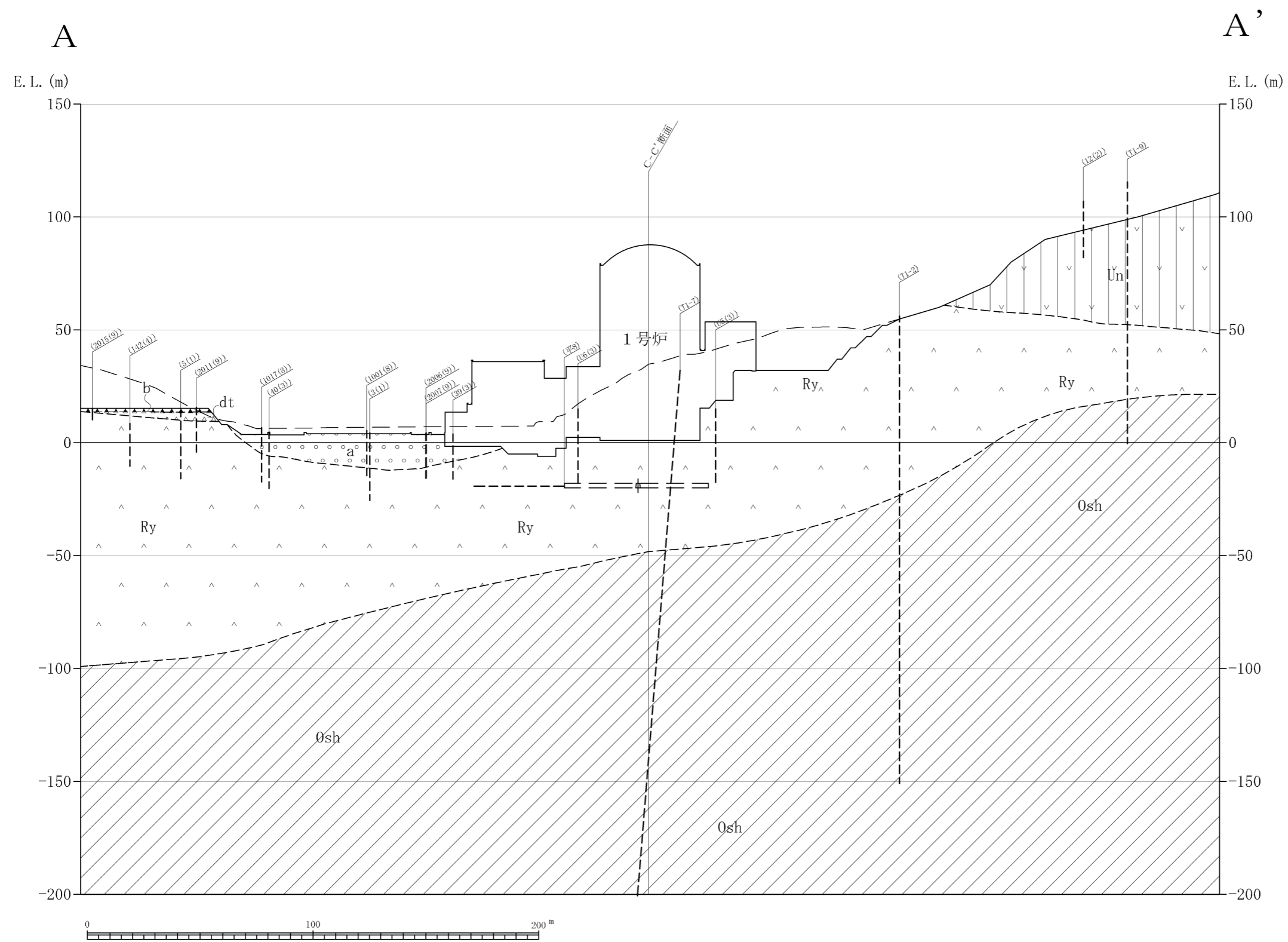


凡例	
	盛土
	沖積層
	崖錐堆積物
	新期扇状地堆積物
	青葉山安山岩類
	石英閃緑岩
	安山岩及び凝灰角礫岩 (今戸鼻層)
	泥岩 (神野浦頁岩部層)
	礫岩・砂岩 (潮波峠礫岩・砂岩部層)
	安山岩及び凝灰角礫岩 (名島火山岩部層)
	流紋岩
	流紋岩質凝灰岩
	流紋岩 (接触変成部)
	頁岩
	頁岩 (接触変成部)
	地質境界
	断層

※地質平面図で人工改変地(r)としている部分は、実際に分布する地質で表現した。

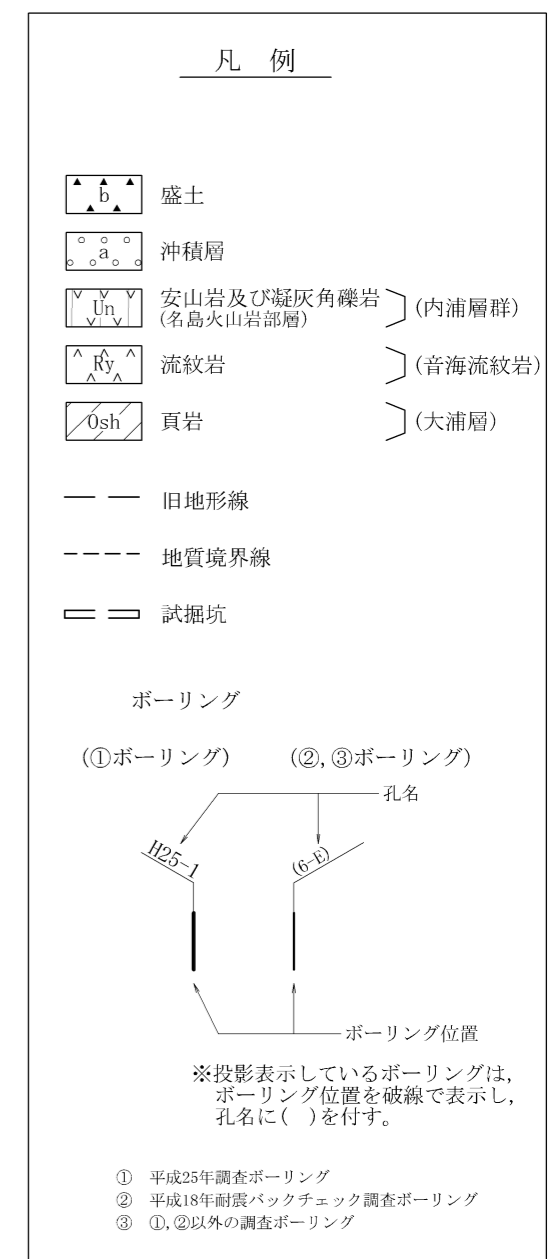
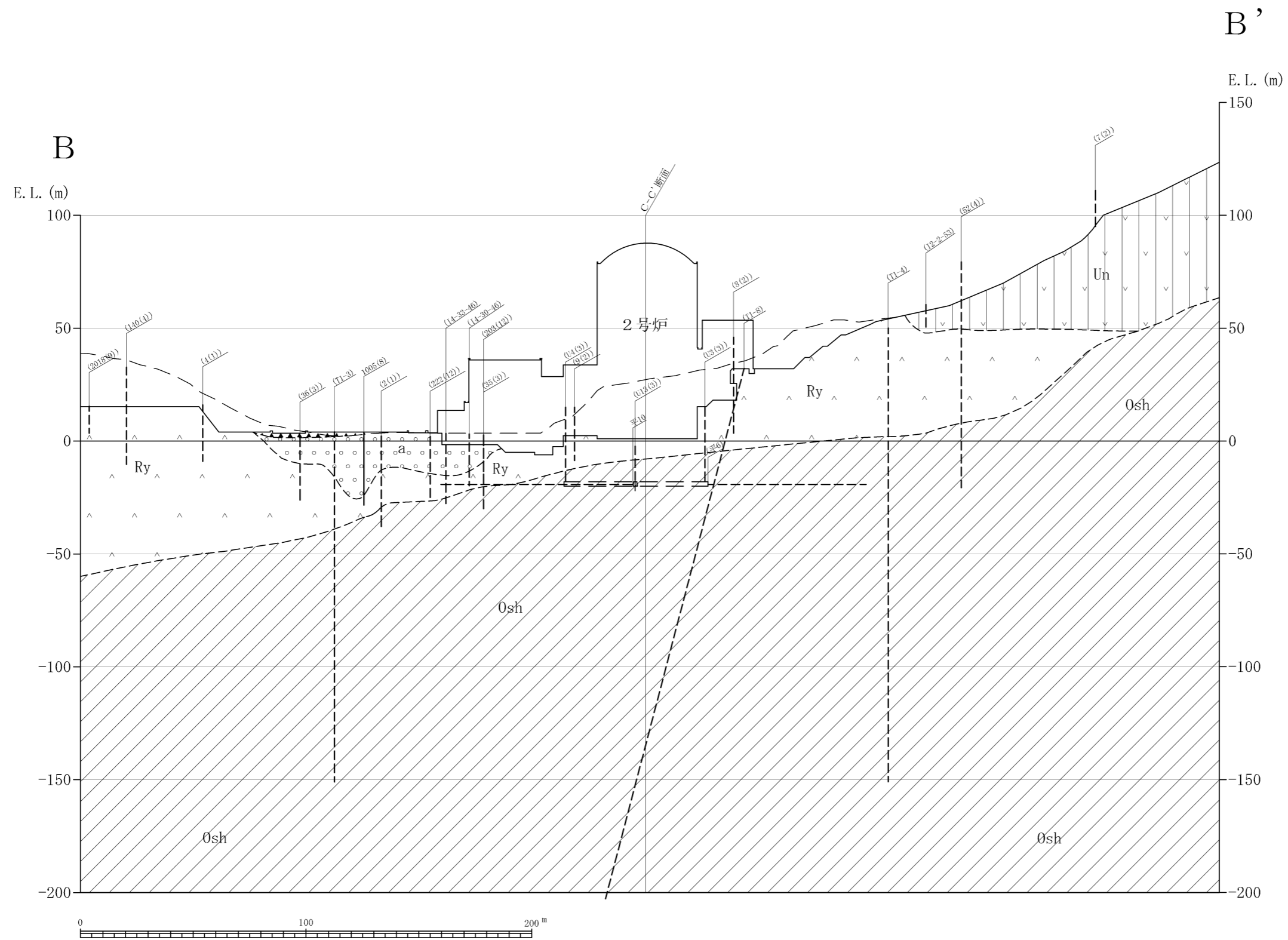
※断面図作成位置は第1.2.3.3.1図に示す。

第1.2.3.3.2図 敷地の地質断面図



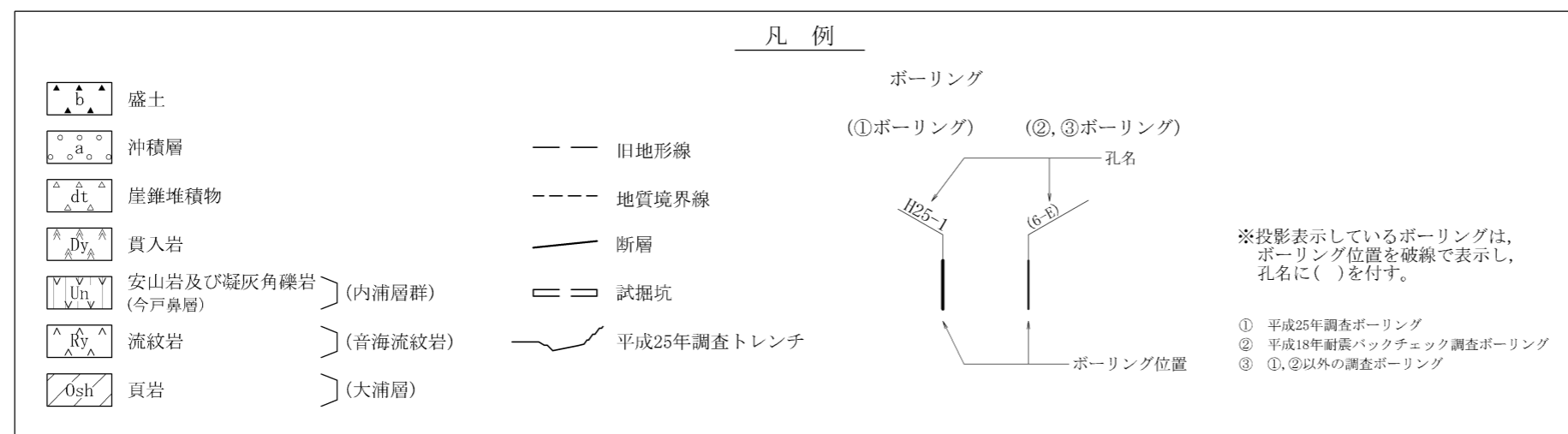
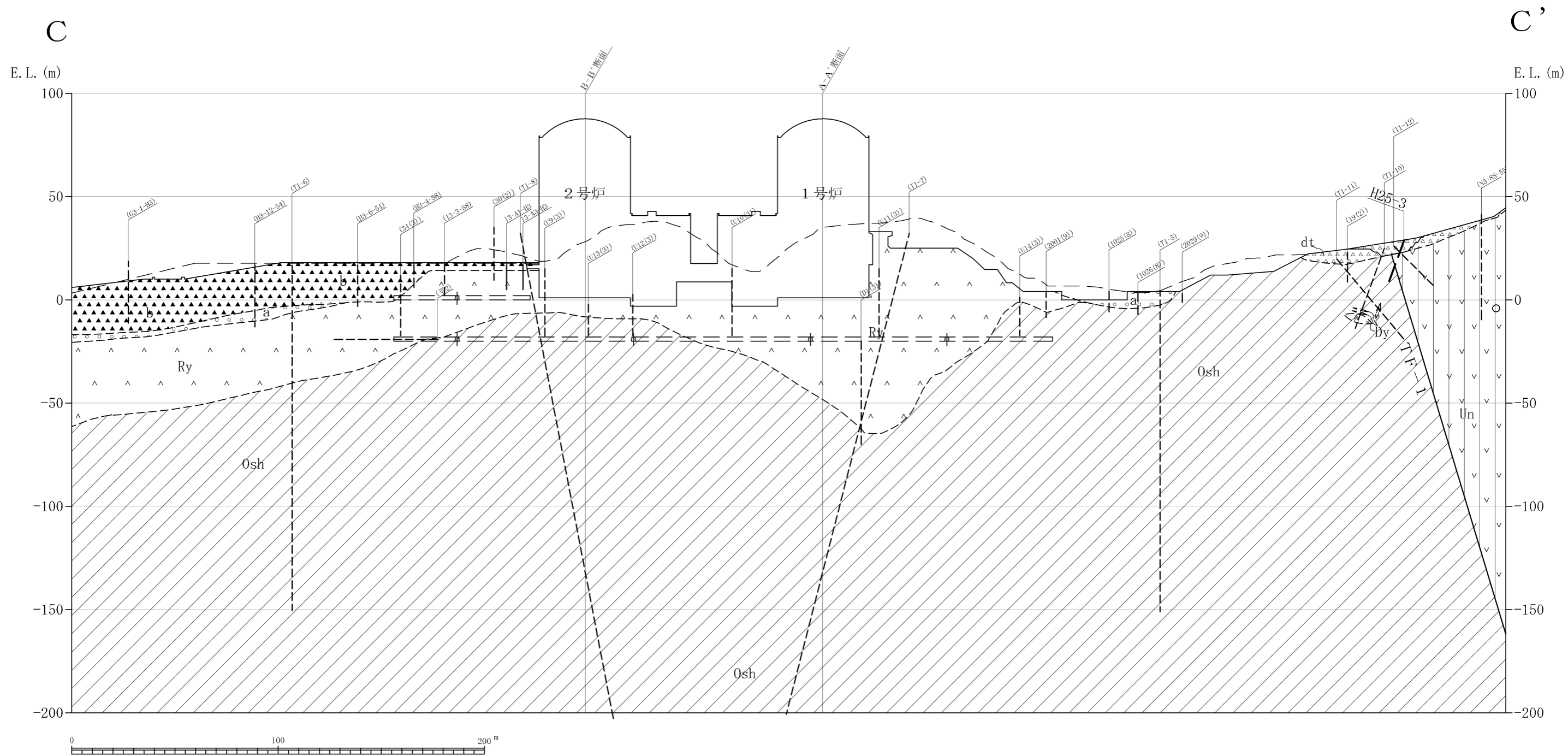
※断面図作成位置は第1.2.3.3.3図に示す。

第1.2.3.3.4図(1) 地質鉛直断面図 (A-A' 断面図)



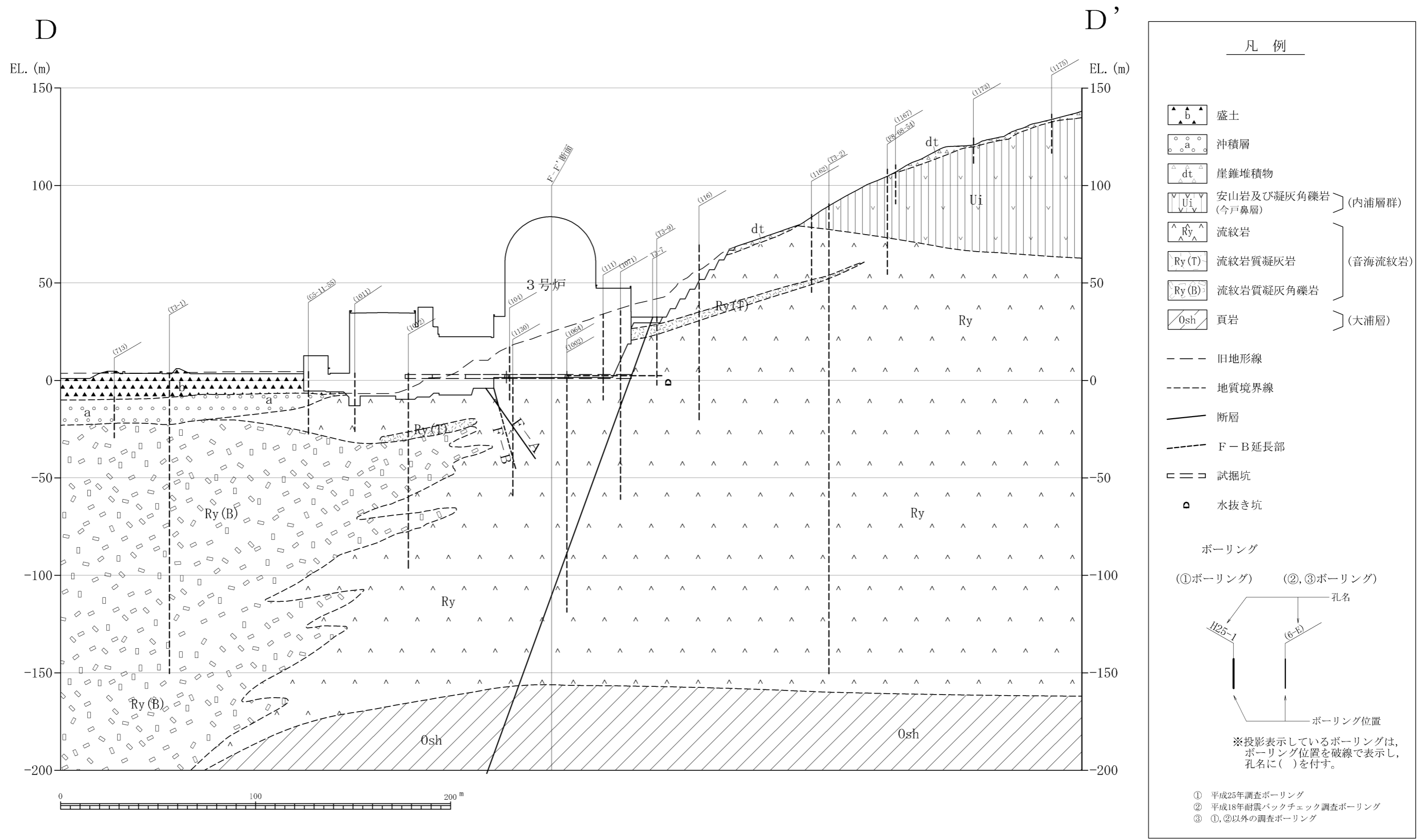
※断面図作成位置は第1.2.3.3.4図に示す。

第1.2.3.3.4図(2) 地質鉛直断面図 (B-B' 断面図)



第1.2.3.3.4図(3) 地質鉛直断面図 (C-C' 断面図)

※断面図作成位置は第1.2.3.3.3図に示す。



凡 例

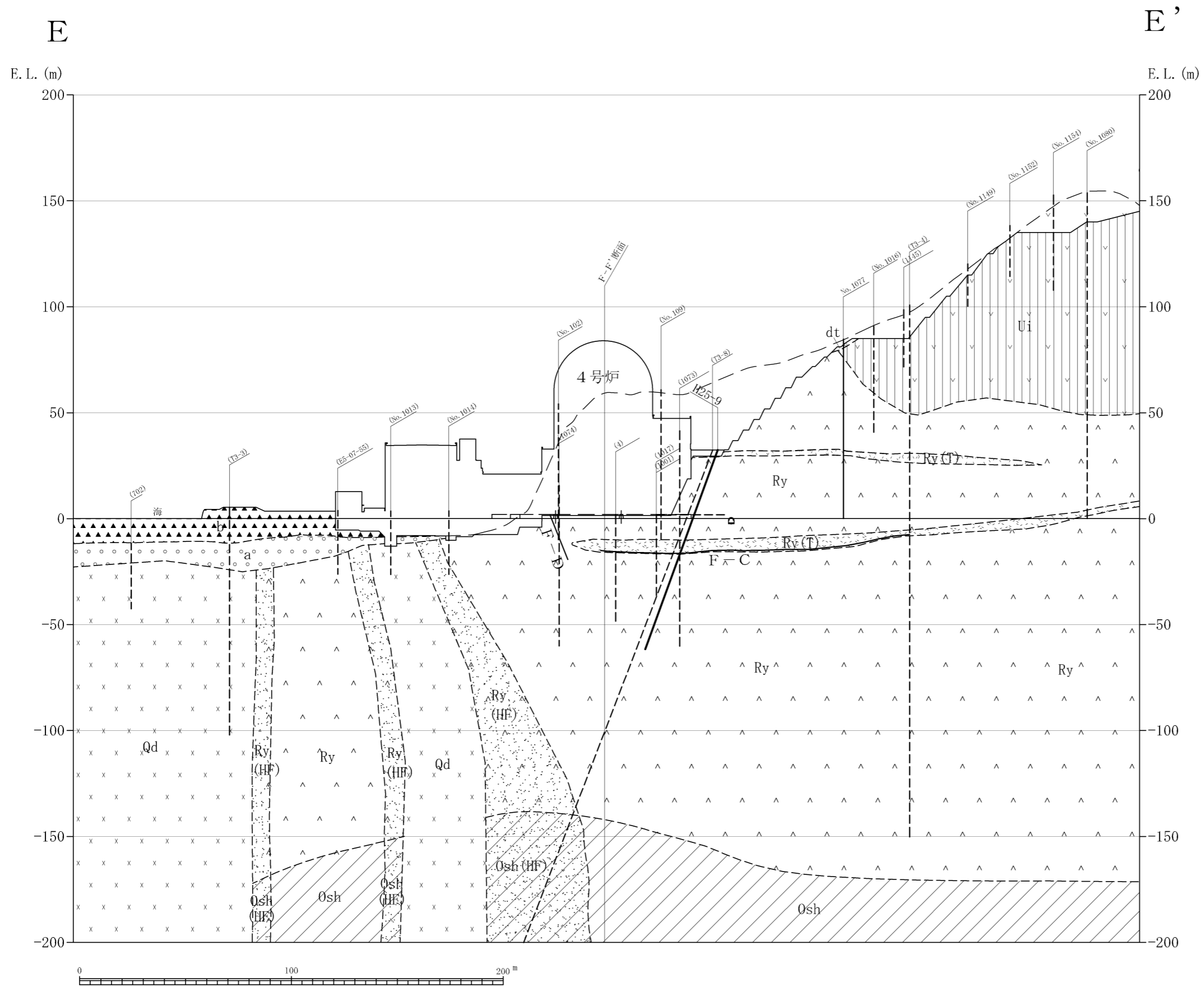
	盛土	
	沖積層	
	崖錐堆積物	
	安山岩及び凝灰角礫岩	} (内浦層群)
	今戸鼻層	
	流紋岩	} (音海流紋岩)
	Ry (T)	
	Ry (B)	
	Osh	} (大浦層)
	旧地形線	
	地質境界線	
	断層	
	F-B延長部	
	試掘坑	
	水抜き坑	
ボーリング		
	①ボーリング	} 孔名
	②, ③ボーリング	
	ボーリング位置	

※投影表示しているボーリングは、ボーリング位置を破線で表示し、孔名に()を付す。

① 平成25年調査ボーリング
 ② 平成18年耐震バックチェック調査ボーリング
 ③ ①, ②以外の調査ボーリング

※断面図作成位置は第1. 2. 3. 3. 3図に示す。

第1.2.3.3.4図(4) 地質鉛直断面図 (D-D' 断面図)



凡例

- 盛土
- 沖積層
- 崖錐堆積物
- 石英閃緑岩
- 安山岩及び凝灰角礫岩 (内浦層群)
- 流紋岩 (今戸鼻層)
- 流紋岩質凝灰岩 (音海流紋岩)
- 流紋岩 (接触変成部)
- 頁岩 (大浦層)
- 頁岩 (接触変成部)

旧地形線
 地質境界線
 断層
 試掘坑
 水抜き坑

ボーリング

(①ボーリング) (②, ③ボーリング)

孔名

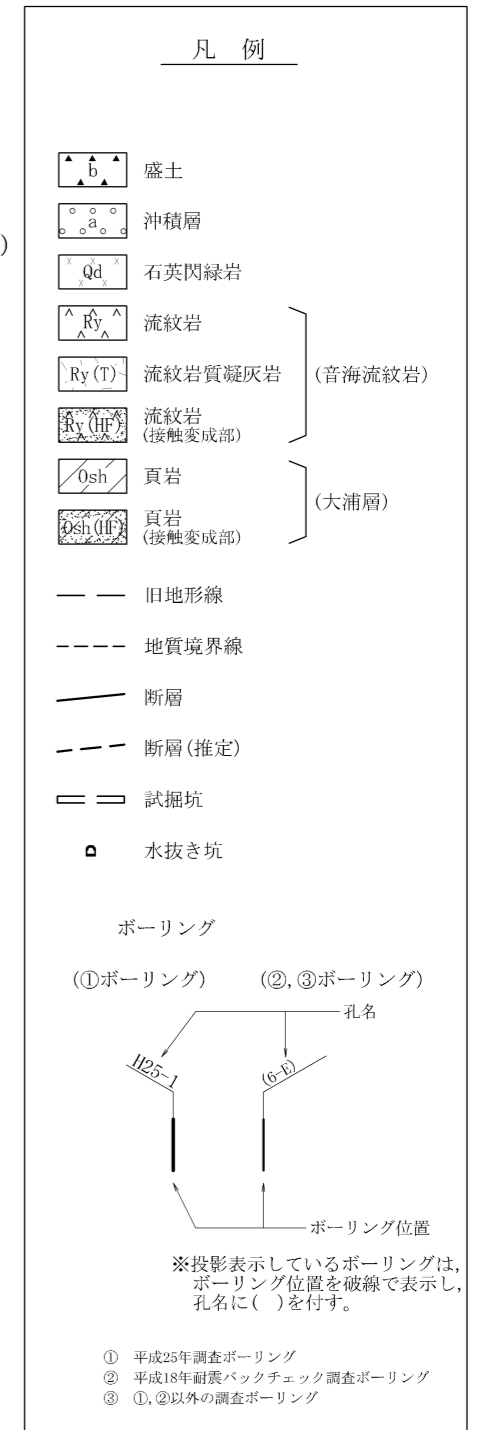
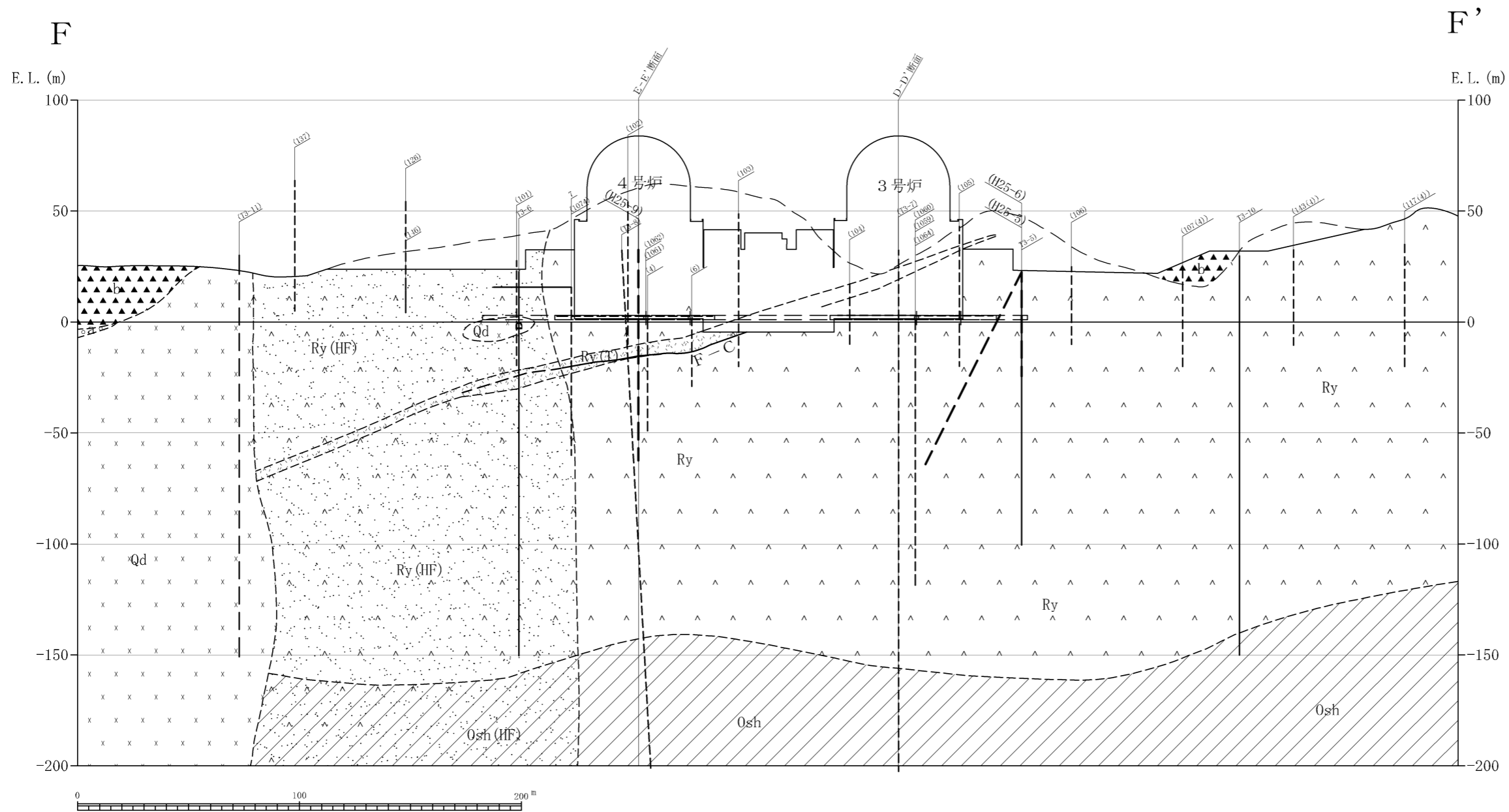
ボーリング位置

※投影表示しているボーリングは、ボーリング位置を破線で表示し、孔名に()を付す。

① 平成25年調査ボーリング
 ② 平成18年耐震バックチェック調査ボーリング
 ③ ①, ②以外の調査ボーリング

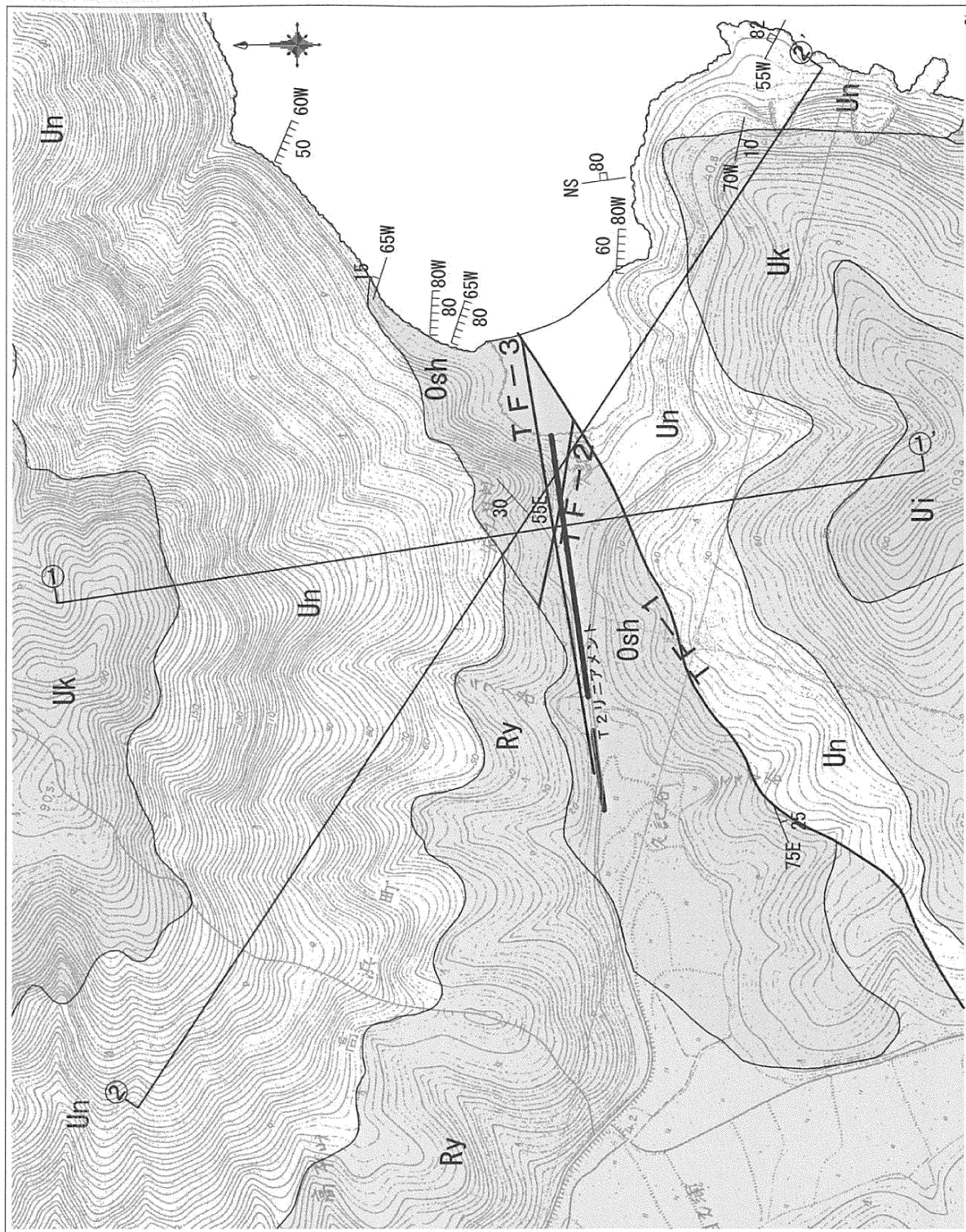
※断面図作成位置は第1.2.3.3.3図に示す。

第1.2.3.3.4図(5) 地質鉛直断面図 (E-E' 断面図)



※断面図作成位置は第1.2.3.3.3図に示す。

第1.2.3.3.4図(6) 地質鉛直断面図 (F - F' 断面図)



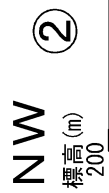
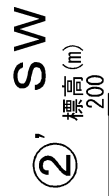
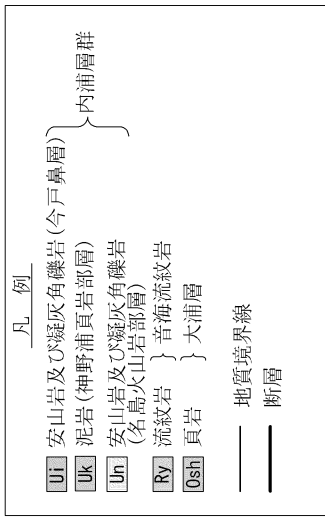
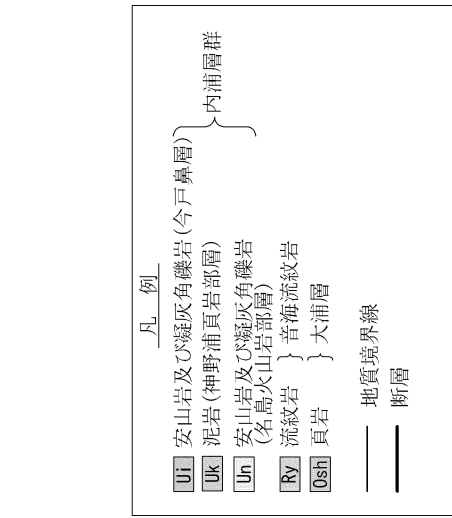
※この地形図は昭和43年度第三次地形地質調査工事において作成した地形図を使用
 ※T2リニアメントを転記して表示

凡 例

<ul style="list-style-type: none"> ■ Ui 安山岩及び凝灰角礫岩 (今戸鼻層) ■ UK 泥岩(神野浦頁岩部層) ■ Un 安山岩及び凝灰角礫岩 (名島火山岩部層) ■ Ry 流紋岩 } 音海流紋岩 ■ Osh 頁岩 } 大浦層 	<ul style="list-style-type: none"> — 地質境界 — 断層 — Dプランクのリニアメント ○ 断面位置
---	--

層理面の走向傾斜(偏角未補正)
 割れ目の走向傾斜(偏角未補正)
 断層面の走向傾斜(偏角未補正)

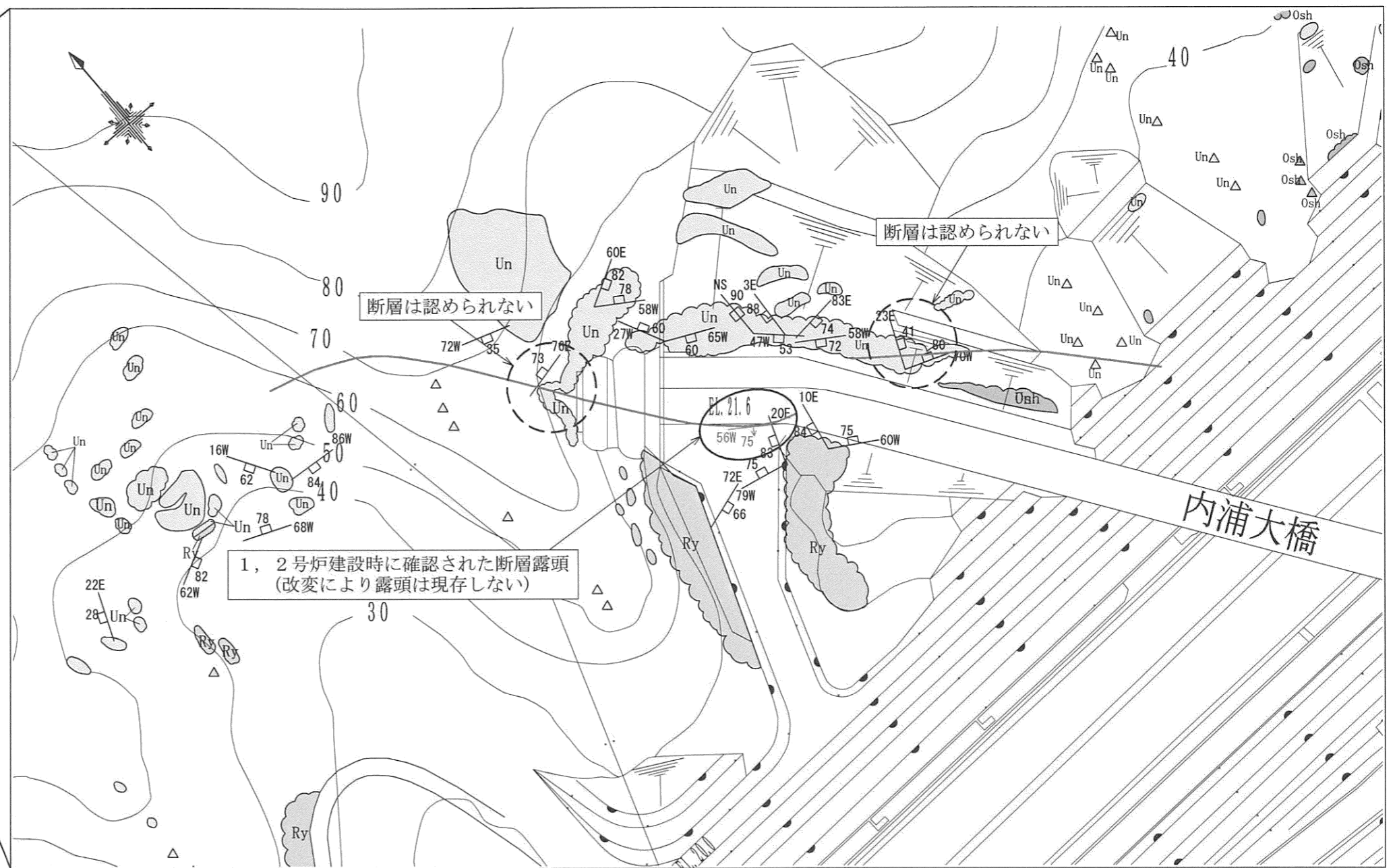
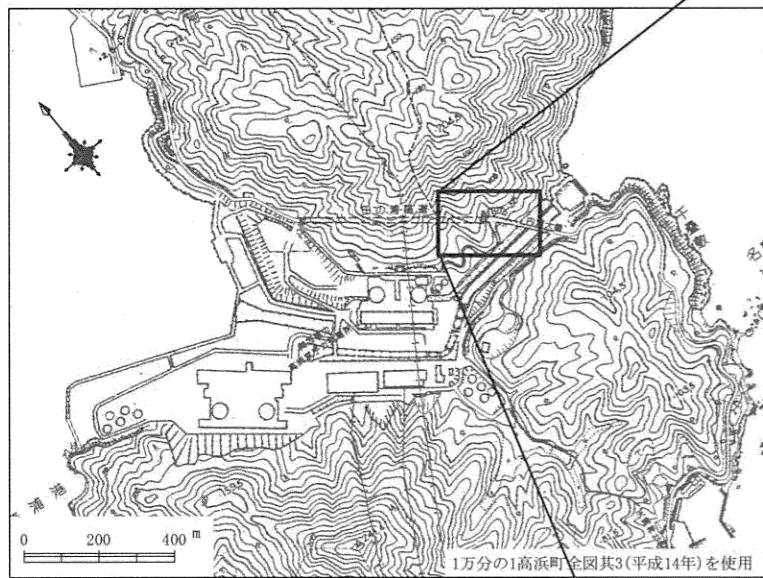
第1.2.3.3.5図 T2リニアメント周辺の基盤岩分布図



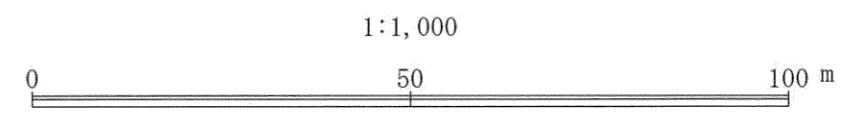
T-2 リニアメント通過部付近では、ボーリング調査により、基盤岩中にリニアメントと調和的な方向を持つ3条の断層 (TF-1 ~ TF-3) を確認した。
T2 リニアメント周辺には、上記断層に沿う凹地状の地形が形成されている。
TF-1 は、断層面両側の地層の分布状況及び変形組織の観察結果より、正断層であると考えられる。

断面図作成位置は第1.2.3.3.5図に示す。

第1.2.3.3.6図 T2 リニアメント周辺の基盤岩地質断面図



- 建設時の設置許可申請書では、「内浦層群中には断層、破碎帯は極めて少なく、県道トンネル入口で破碎帯の幅が10cm程度の小規模な断層が確認されたのみである。」と記載されている。
- 北側延長上のトンネル坑口上方斜面及び南側延長上の県道の擁壁上方に分布する内浦層群名島火山岩部層の連続露頭に断層は認められない。
- 建設時の設置許可申請書に記載された断層に相当する変動地形は認められない。



凡 例

	1, 2号炉建設時に確認された断層露頭(音海流紋岩)
	露頭(内浦層群名島火山部層)
	露頭(大浦層頁岩)
	転石(内浦層群名島火山部層)
	転石(大浦層頁岩)
	節理面の走向傾斜
	1, 2号炉建設時に確認された断層露頭位置及び、断層面の走向傾斜

第1.2.3.3.7図 田ノ浦トンネル東側坑口付近ルートマップ